



日本カトリック海外宣教者を支援する会

巻頭言

丘の上での十字架の崇敬

神言修道会 司祭 北 島 泰 治

引退した宣教神父として日々なんとなく管理人の仕事をしています。今年僕も 70 歳になります。いたって健康です。もうかつて僕を指導してくださった先輩宣教師たちは天国へ行かれました。今はこの歳でいかに宣教し続けられるかを模索しています。そう言ったわけで週 2 回のグループミサと病人訪問、葬式、週末の家庭食事会、誕生日会と信者さんたちと共に過ごす時間を大切にしています。中でも信者さんと行く巡礼は楽しい時間の一つです。先日の聖金曜日の日に十字架の崇敬式の司式を頼まれて 4 時間かけて車でサン・フランシスコ・ハビエル小教区の Serra monnje の丘の上でブラジルを眺めながら十字架崇敬の司式をしてきました。この催しを企画したのは昨年創立された神言会の在俗会・信者の会です。僕はそこの霊的指導者となっています。この日のために教会のメインの十字架を取り外して持って行きました。この丘の上には小さなお御堂がありまして、そこからの景色はとても素晴らしいものでした。

その説教の中で十字架は愛のしるし。そして、その十字架を如何にして自分のこととできるのかをふまえて話をしました。僕のスペイン語がブラジルに近い人たちに分かってもらえるか心配でした。僕はパラグアイに近い方でもっばら宣教をしていますので。



巻頭言	1
第 88 回運営委員会議事録	2
宣教者からのお便り	3
ザ・メッセージ	10
こんにちは！お久しぶりです！！	12
ECHO	12
連載「海外宣教」	14
新入会員・事務局より	16



「…一人の子が学校でいつも友達からの嫌がらせで泣いて家に帰ってきていました。ある日この子は母さんの顔がどうしてそんなやけどをしているのか、そのために、どうしていじめられなければならないのかと。するとお母さんはアルバムを見せてくれました。そこにはお父さんと一人の美しい女性が写っていました。この人は誰なのかと尋ねると、それはお母さんだと聞かされました。その子が赤ん坊だった時の冬、ふと振り返ってみると坊やがちょうど煮えたるやかんに手を伸ばそうとしているところで、急いでその子を抱え上げたのですが、そのお湯はお母さんの顔にかかったのだそうです。お母さんは鏡を見て世を憐んだのですが、でもこの子を一人にしてはいけないと思いとどまったそうです。それを聞いた坊やは お母さんのお顔のやけどは愛のしるしだということを知りました。坊やはその日以後、学校から泣いて帰ってくることはなくなりました。神様の愛のしるしは勿論十字架なのですね。

十字架を崇敬するときの気持ちについて、長崎での踏み絵のことを思い出します。十字架を踏めば命は助かる。でも十字架を踏まなければ命がなくなる。ある信者さんはそれを拒んだので役人が力づくで踏ませようとしたところ、十字架を抱いてキスをしたそうです。死んでも悔



いはなかったのです。このことを日本人の信者さんは今まで語り継いでいます。その思いを今ここで共にしましょう。」説教の後、信者さんたちは静かに涙と共に十字架の崇敬に臨みました。とても心に残る巡礼になりました。

後で聞いたのですが この丘の上での十字架の崇敬はこれが最初だということでした。来年も招待があれば続けたいと思いました。

(アルゼンチン・ミシオネス州在住)

第 88 回運営委員会議事録

日 時：2023 年 3 月 11 日（土） 13:30 ～ 14:10

場 所：フランシスコ修道会 聖ヨゼフ修道院 2 階会議室

参 加：運営委員 11 名 新スタッフ 1 名

議 事

I. 「きずな」162 号について

編集者より：菊地大司教の「宣教者のお話を聞く会」の要約原稿、山野内司教の連載などもあり、内容が豊富で 20 ページとなった。

Ⅱ. 「きずな」163号について

事務局より：巻頭言はアルゼンチンの神言修道会、北島泰治神父に依頼できた。

Ⅲ. 援助申請

- ・東チモールの中村葉子シスター（聖心侍女修道会）より、小学生から大学生までに提供している養成センターの図書の購入費用として\$2,500の支援要請があった。青年、児童の為の図書を買っていただくことで承認された。

（シスター中村は4月まで日本に滞在しているため、\$2,500を手渡しする予定）

Ⅳ. その他

- ・2月21日 ボランテア2名でカトリック雑誌を海外49か所事務所発送。
- ・国内 きずな162号 業者封入発送 国内2,841か所。
- ・3月3日 ボランテア3名
きずな 海外110か所事務所発送。
きずな 大口など国内52か所事務所発送。
オリバンテ（ブラジルからの冊子）国内17か所事務所発送。
- ・会計監査を5月頃、シスター桐野に依頼。
- ・3月10日、ドイツよりシスター比護キクエ（聖パウロ女子修道会）が、完全帰国され、事務局を来訪された。きずな163号に寄稿予定。
- ・今回のみスタッフの余語洋子さん運営委員会に出席、紹介した。
- ・会長村上芳隆神父（フランシスコ会）は4月より長崎転勤となったが、引き続き会長を継続していただき運営委員会は出席予定。
- ・次回の運営委員会は6月10日（土）13時より（時間変更）



宣教者からのお便り



カンボジア ◆ シェムリアップ ◆

カンボジアに派遣されて10か月

ショファイユの幼きイエズス修道会 池 尻 ひとみ

昨年4月に、私はシェムリアップ共同体に派遣されました。カンボジア到着後、次々と新し

い体験が続きました。そのなかで、コロナの為に数年間中止されていた殉教祭、献堂式、落成式等々が行われ、一番遠出をした行事としてはベトナムとの国境近く、少数民族の方の多く住むモンドルキリで、現地出身の神父様の叙階式が行われ、行きと帰りにそれぞれ一日かけて行きました。カンボジアは、一番大きいプノンペ



シエムリアップ教会

っていますが、多くの行事が教区を超えて行われています。

住んでいる修道院から、教会まで歩いて5分ほどですが、その小さな通りには、洗濯屋、菓子屋、パン製造販売店、朝食の屋台、洋服の補正店、雑貨屋と続いて教会の裏門に着きます。それぞれに生活の匂いを感じます。ミサが終わって帰る時には、家の庭先でご婦人がたらい一杯の洗濯物を手洗いしたり、すでに洗濯を終えて色鮮やかに干している光景を見ます。

現在、2名の共同体で、主な使徒職は、車で20分ほどのアラーニュ村で5歳と4歳児の幼児教育、そしてシエムリアップ教会〔聖ヨハネ教会〕の奉仕です。私は教会の奉仕をしていますが、毎日のミサ、その他、洗礼式や結婚式、納骨式等の準備片付け、土曜日と日曜日のミサの時の献金の集計、外国からの訪問者への対応等々です。土曜日夕方のミサは、英語ミサで主にベトナム人の信者さんと外国人の方が多くですし、参加される方は、増え続けています。日曜日朝のミサは、クメール語です。神父様方は、3人のイエズス会士（フィリッピン人、タイ人、韓国人）と2人のミルヒル宣教会（フィリッ

ン教区、私たちが属するバタンバン教区、そして去年、初のカンボジア人司教が誕生したコンボンチャム教区の3つの教区からな

ン人、インド人）と国際色豊かです。私は、まだクメール語がよく話せませんが、神父様方は、皆英語も話されるため英語でコミュニケーションをとっています。

昨年12月、小さな村々から子供たちが100名程集まって、3日間のカテキズムがありました。朝早く教会に着くと、教会の庭には、小さなキノコのようなテントが所狭しと建てられ、その中で子供たちは、5、6人ずつ休んだようですが、起床後みんなでテントを片付け、私たちと一緒に朝のミサにも与り、其の後、庭で、朝食を楽しそうに頂いていました。シエムリアップの教会を拠点に、神父様方は、日曜日、または、前日、前々日から小さな村の教会へと司牧に出かけられます。

大きな行事の後には、いつもアプサラの踊り（伝統舞踊）が披露されますが、踊っている若者たちの中に、自分たちの文化への誇りを強く感じ感動します。園庭を駆け回る子供たち、道で出会う子供たち、日曜日のミサの中、力強い声で祈り歌う子供たちは、私に元気と希望を与えてくれます。子供たちの将来の為に必要に応えながらイエス様の愛を伝えていきたいと願っています。

インドネシア

◆バンドン◆

家庭科を教えるために

聖心会 足立 万利子

早いもので終生誓願宣立（1988年6月ローマにて）後28年も静岡県裾野市で学校－黙想の家－寄宿舎で使徒職に勤しんでおりました

私が、インドネシア地区に移り6年が過ぎました。2017年の管区長訪問の折に、定年退職後、インドネシア地区が家庭科を教えられるシスターを求めているので、行ってもらえないかと云う話が舞い込んで来ました。神様の計らいか、長上達のお試し計画だったかは分かりませんが、定年退職前のふた夏インドネシアの若いシスターたちに洋裁を教えに行くという機会が与えられました。インドネシアへ親しみを感じていましたので、何の躊躇なく快諾しました。長かった裾野での大片付けを終え東京の修道院へ移り、年の黙想をし、5月15日朝の羽田空港から7時間インドネシアのスカルノーハッタ空港へ到着。最初に来る時は右へ右へ出て来たと連絡を受けていたので、いとも容易く出迎いのSr.井上(在インドネシア30年の大先輩、今は在東京)を発見し、まずはジャカルタのクボナナスの修道院で一泊。次の朝2時間半のリントス(12人くらい乗れる乗り合いバス)でバンドンの修練院へ着きました。バンドンは1955年にアジア・アフリカ会議が開催された事で有名な都市です。今、その会場は博物館として保存され2015年に、世界平和と協力の推進に関する宣言をしたとして、ユネスコ記憶遺産に登録されています。バンドン市は人口240万人とジャカルタ、スラバヤに次ぐ第三の都市です。標高が700～800mと高く、朝夕は涼しく、過ごし易い町です。私が着いた5月は乾季で、洗濯物も30分も干すと乾き、滑り出しは快適でした。しかし、11月に入ると雨季になり、概ね午後は雨という毎日になり、台風かと思うほどの土砂降りには驚きました。もう一つ驚いたのはラマダーン(イスラム教の断食月)にな

るとイスラム教徒は日中は幼稚園児から大人まで飲食を断つのです。書物で読み、話には聞いていたものの幼稚園の手伝いに行き87.21%がイスラム教徒の現実を身をもって知りました。苦しい顔もせず当たり前的事として行なっているのです。また、イスラム教徒の親も子供をカトリックの私たちの幼稚園へ通わせています。インドネシアでの身分証明書には、イスラム教、キリスト教、ヒンズー教、仏教、儒教の何れかの記述がされています。どうも日本国憲法の宗教の自由とは少し異なるようです。それが顕著に表れているのが祝祭日です。キリスト者が祝うイースター、キリスト昇天、クリスマスが祝日となっていますし、ムハンマドの生誕記念日



修練者たちと



生徒達と家の前でパーティー

やブッダの生誕祭も祝日ですし、5月1日はメーデー、8月17日は独立記念日と、それぞれの国民の信条を汲み取った日が祝祭日とされています。私の知る限り宗教心の本当に篤い国です。インドネシア共和国憲法にはパンチャシラという国是とされている五原則があります。

①唯一の神への信仰。②公平で文化的な人道主義。③インドネシアの統一。④協議と代議制に於いて英知によって導かれる民主主義。⑤インドネシア全人民に対する社会正義。この5項目を掲げています。300の民族、250以上の言語、13,466の大小の島々に2億7380万人(世界第4位)の人口を抱えた面積はアメリカ合衆国と同じ大きさの海洋国です。宗教の自由が保証され、若者達が伸び伸びと育っているこの国の未来に私は大きな希望を感じています。来年は5年に一度の選挙のある年です。来年の今頃は新しい大統領が決まり、新しい一歩が踏み出されていることと思います。新しい大統領が小さき貧しい人々を大切に考える方であるようお願いしています。どうぞインドネシアの為にもお祈り下さい。

オーストラリア

◆シドニー◆

オーストラリアに来て早34年

聖パウロ女子修道会 松本 恵

私がオーストラリアに来て、今年の10月で34年になる。来年誓願50周年を迎える修道生活の遥か半分以上を、オーストラリアで宣教していることになる。そんなに!?と、自分でも驚いている。そんなに長く、私はここで何をして

きたのだろうか。

修道共同体での生活や、使徒職をする上で、未だに言葉のハンディーを毎日感じている私で、特に最初のころは、日本で、日本語で、生活・働きをすれば、もっと沢山のよいことが出来るはずなのに、私は今ここでどれだけ貢献できているのかと、よく考えていた。

ところで、ここオーストラリアは移民の国と言われ、アボリジニと言われる原住民以外は、みな他の国からやってきた移民だ。でも、その出身国や宗教などの状況は、私が来てからの30年間でも大きく変化している。おおざっぱな数字だが、比較すると、

	1990年	2021年
人口：総人口	1,750万人	2,570万人
オーストラリア生まれ*	1,300万人	1,820万人
海外生まれ	450万人	750万人
	(A=57%、B=43%)	(A=44%、B=56%)

(A=欧米生まれ、B=アジア・中近東・アフリカ生まれ)

*オーストラリア生まれの中には、両親が片親が海外生まれという人も含まれているので、実際には、海外につながりのある人の割合はもっと高くなる。

宗教：(全人口に対する%)

キリスト教	70%	45%
他宗教	4%	15%
無宗教	26%	40%

今でも聖金曜日が国の祝日になっているくらい、キリスト教国と言えるが、上の統計を見て分かるように、過去30年間を見ても、かつてヨーロッパ、アングロサクソン系で、キリスト教徒が大半を占めていた人口が、最近では、アジア、中近東、アフリカなど、キリスト教以外の宗教を持っていたり無宗教の人口の割合が急激に増えてきた。



パウロ書店の
内部



この女子パウロ会の共同体も、かつては、イタリア人宣教女とイタリア系移民のシスターが大半だったのが、最近では、フィリピン、インド、日本などのメンバーが半数近くを占めている。

こういう状況を見た時、私がここで何ができるかというより、日本人である私がここに居ること自体に意味があるのではないかと考えるようになってきた。特に、シドニー市の中心街にある私たちの聖パウロ書店には、いろいろな背景を持った人々が訪れてくださる。だから、この書店での私の存在が、この方々にとって、何かの意味を持つことになれば、私がここに派遣

されてきた意味があったのではないかと思えてきた。

先に書いたように、適切な書籍を適切な人々にお薦めできるために書店にある本を大量に読みこなす英語力を十分持ち備えていない私でも、日本人としての私なりにできる宣教ができたかと、毎日いろいろ工夫しながら励んでいる今日この頃だ。(写真参照)

ブラジル

◆モジ・ダス・クルーゼス◆

聖フランシスコと復活

コンヴェンツァル聖フランシスコ修道会 松尾 繁詞

アシジの聖フランシスコが生きた時代は、バチカン公会議後のような復活の秘儀についての関心は強調されていないようです。しかし、チェラノのトマス「第二伝記」には、聖フランシスコの最後を詳細に記述しながら、十字架を経て達する「過ぎ越し」が明確に浮かんできます。死期が迫ったことを知ったフランシスコは、それまで滞在していたアシジの市内の司教館から郊外のポルチンクラの教会へ運んでくれるよう頼んだ。そこは、彼にとってリヴォトルトを追われて後、最初の弟子たちと共に祈りと瞑想、神と人々への奉仕を行った場所であり、小さき兄弟会が生まれ、聖クララが剃髪して出家した処、精神的な中心地となっていた。アシジの司教館からポルチンクラ、これは彼の人生の縮図です。「何も自分のものにしない」ことを信条としていたフランシスコにとって、死はキリストに従う者として生きるために選びとった清貧の最高峰です。「死は自分のものと言える一切

のもの、体さえ取り去る。」「姉妹なる死」と彼は呼んだ。それは10月2日の金曜日であったと言われている。弟子たちが嘆き悲しんでいると、フランシスコはパンを持ってこさせ、最後の晩餐の時にイエス・キリストがしたように、それを裂いて祝福し、弟子たちに与えた。最期の日、自らの死が近づいたのを知ると、弟子たちを呼び寄せ、近づいて来る生命に対して、神への賛美を大声で歌うように彼らに求めた。弟子たちが歌い終わると、フランシスコは、か細い声で最期の力を振り絞って、神の憐みを求める詩編142を歌った。弟子たちもそれに和した。「声を上げ、主に向かって憐みを求めよう……」これに続いて「太陽の賛歌を歌うように求めた。称えられよ、我が主、我らの姉妹、肉体の死によって、生きるものは誰も、その手から、逃れることがない。……」

フランシスコはキリストが師たちの足を洗ったヨハネ福音書13章を朗読させた。それから、修道服を脱ぎ、粗末な下着姿にしてみようと、むき出しの大地に横たえてもらった。「裸で裸のキリストの後に従い、自ら無に等しく、何も所有していない者であることを示した。主の過ぎ越しの日を自ら祝いながら……フランシスコは、「復活」を語らない。キリストと同じように貧しく生きました。キリストの受肉の秘儀に、受難に、聖体に、復活し生き続ける神の私たちに對する限りない愛を見えています。彼の死は永遠の命への過ぎ越しであった。フランシスコの死は永遠の命への過ぎ越しであった。フランシスコの死をtransito「運び移される、移行する」と呼ぶ所以である。

グアテマラ

◆コロンバ◆

スラムへの援助申請

ベリス・メルセス宣教修道女会 眞 神 シ ゲ

グアテマラ市には、3つの大きなスラムがあります。私たちの修道院はスラムのそばにあります。修道院で教区の婦人の集まりがあり、此処に住む人たちのために無料食事提供やカリタスから送られてくる食料品、日用品、などの配布も行っています。と同時にスラムの婦人たちの識字教育を週に2回行っています。しかし突然教区からのこの集まりへの援助が打ち切りになってしまいました。それは教区への大きな寄付も切られてしまったからです。今年だけでもなんとか活動を行いたいため援助申請をいたします。

今回の申請 50万円

目的 婦人の社会的地位向上を目的とする勉強会です。

内容 識字教育。単に読み書きのみならず、自分の意見をまとめたり発表すること。歴史、政治、健康衛生に関する学び。薬作り、日常品改良、生きていくために必要な事を伝えて参りました。年間プランを立てて、今年は、選挙に向けての勉強会も始めていました。

謝礼 講師への謝礼です。交通費等を含めて大体一万円と高額です。彼らを助ける意味もあります。

交通費援助 参加者への援助です。修道院の隣のスラムからだけでは無く遠くのスラムから来る方もいます。又スラムの方のみならず、遠くからこの勉強会のことを聞いて参加される方も多いです。彼らはこの日、自分の仕事を休んでくるので交通費援助の名目での援助金となりま

す。私たちは、1人でも多くの人にこの勉強会に参加してほしいのです。彼らが現実を知り、世界を知り、神の子としてこのグアテマラを神の国とするために、自分は何をすればいいのかを見つけてもらいたいと望んでいます。この国は、36年間にわたる内戦が1996年の12月に「終結」しましたが、現在に至るまで全ての国民の福利厚生を願った政治は始まっていません。いまだに多くのマヤ原住民は現政府(軍隊)に土地を奪われ、リーダーの多くは行方不明が続いています。土地を奪われリーダーを失った村人は、スラムへ流れ込み難民発生の原因となっています。彼らは学校や病院に行くこともできません。こんな状態の彼らへの細い光となるようにと始まった勉強会でした。コロナ以前には100人近くの方が参加していました。今はかなりその数が減り50人ほどですが続けたいと思います。突然の支援打ち切りで慌てふためいている私たちです。今後を考えるためにも今年なんとか続けたいと思います。この勉強会に、これから良い方法が見つかる事を願っております。

.....

カンボジア

◆カンボート◆

19年間の活動を終了

ショファイユの幼きイエズス修道会 橋本進子

いつも海外での私達のミッションのため物心両面でたくさんご援助くださり、本当にありがとうございます。

私、Sr. 橋本進子は、4年ぶりに休暇で帰国してはや1ヶ月が過ぎました。来る6月で86

歳になります。年齢は正直で体のあちこちの検査のため病院通いをしています。おかげさまで合格が増え、再度カンボジアへ行く準備をしております。

ところで、2023年3月をもってカンボジア、カンボート共同体を閉じることになりました。2004年3月にカンボジア、プノンペン教区のカンボート教会の協働者として奉仕を始めて19年になります。この間、私たち4名の姉妹はそれぞれの専門性を生かして幼児教育、健康医療奉仕、青少年の教育の一部を負い、また教会内外の必要に応じてカンボジアの皆さんに助けをいただきながら神様と人びとの奉仕に努めてまいりました。活動の概略については、プノンペン教区と修道会からの宿題で2021年1月にまとめたものですが、それをご覧いただけたら幸いです。この間、本当にたくさんのご援助をいただきました。紙面、そして言葉では十分申し上げる術がございません。心から感謝、御礼を申し上げます。

私たちのミッションの場の教会と教育の環境は良くなりました。特に修道院に隣接、いや教会に隣接でしょうか、FLCC(Foreign Language Culture Center)内に図書館棟、幼稚園園舎、小学校校舎、そして道路を挟んでカンボート司牧センターと教会堂が整いました。教会教育環境が立派になりました。毎日園児と児童の元気な声、輝く笑顔から元気をもらっています。今後は教材と教具、そして先生方の教育力量などソフト面の充実が求められます。環境と教育の本気度が求められ、大切だと思えます。これからです。

プノンペンなど都市の環境は一見、発展途上

国には見えないという人たちがいますが、多くのカンボジアの皆さんの生活環境はまだ未だです。若い人たちは一生懸命に働いていますが、ゆとりはありません。両親を助けながら、キリキリ精一杯、いや足りない人が多いのではと思います。

私は6月からシェムリアップ共同体に移動いたします。神様の愛と恵みをいただきながら、新たな奉仕が出来たらと祈っています。これからもお世話になることと思います。よろしくお願い申し上げます。

本当にありがとうございました。

ドイツ

◆デュッセルドルフ◆

お祈りと感謝のうちに

聖パウロ女子修道会 比 護 キクエ

まず始めに、海外宣教者を支援する会の皆様に、私の37年間のドイツでの宣教生活を祈りやその他の物質両面で支えてくださいましたこと、特に、毎回いただいた「きずな」誌から、皆さんの勇気と励ましをいただきました。

昨年の今頃は、一年後に日本にいたことになるとは夢にも思いませんでした。でも会員の高齢化と若い姉妹の将来の可能性を考慮した結果、デュッセルドルフの書院と修道院を閉鎖し、私

は宣教の場をドイツから日本へ移ることになりました。書院と修道院の閉鎖は、デュッセルドルフの教会と町の皆様を驚かし、姉妹の中には「他の方法を探すべき」という意見もありました。日本へ帰国し、修道会の約60年余りの短いデュッセルドルフの宣教活動を顧みて、これでよかったのだとつくづく思います。前々回の「苔むした中からの新芽…」に書きましたように、私はこれを再生と新しい形での宣教の始まりと考えています。私たちの修道会と書院が無くなったことで、信徒たちは一時途方に暮れるでしょう。そして模索が始まります。具体的には、「今までパウロ会で買っていた聖書や聖歌集、ロザリオをどこで手に入れるか？」などなど。ある方は一般の書店へ行き、ある人はアマゾンへ注文するかもしれません。つまり今まで私たちに頼っていたのが、自分の足で立たなくてはならなくなったのです。もう一つ大切なことは、今まで見向きもされなかった一般の書店やアマゾンが、信徒が利用することによって宣教の手段としてますます利用されるようになることです。わたしたちの使命は、私達修道会の発展ではなく、主の福音を告げ知らせることです。主は私を、そして私達修道会をどこへ導かれるのか??? 私の新しい日本での生活を続けてお祈りいただければ幸いです。



☆ブラジル

イエスのカリタス修道女会 白沢康子

大変長らくご無沙汰いたしておりますこと

を、心からお詫び申し上げます。それにも関わらずいつも私たちの為にお祈りをもって支えてくださっていらっしゃる皆様に深く感謝申し上げます。

げます。各月ごとに送付してくださる”きずな”を喜んでいただいております。カトリック生活を自分の霊的糧、そして宣教活動にも利用させていただいております。

パンデミックの為に宣教活動にも多少の支障をもたらしましたが、こちらブラジルでは、平常のミッションをつづけられるようになっております。未だ困難にあっておられる国々、殊にウクライナ情勢にこころをむけて祈りをささげております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。皆様の活動のうえに主の御祝福をお祈り申し上げます。

☆イタリア ローマ

イエスのカリタス修道女会 辻原弘美

いつもあたたかいお心遣いにご奉仕により、海外宣教者を支えてくださっていることに感謝申し上げます。

宣教女として40年以上イタリアの人々とともに生きたシスター松山恵美子は、昨年の11月1日に天の御父の懷に抱かれました。

シスターを慕う多くのイタリア人、在ローマの日本人の皆様にも惜しまれながら、ローマで葬儀を終え、現在は東京にある修道会の墓地に眠っています。持病に加え、深刻な体調不良に苦しんでいたシスターは日本に帰国する予定ではありましたが、イタリアとイタリアの人々を愛していたシスター松山にとって、イタリアを離れることは非常に辛いことでした。そんなシスターの心をご存じの神様が、シスターをイタリアから直接天の国へと導かれたのでしょうか。私たちにはそのように思われました。

私共の修道女会は、特に南米の宣教地における使徒職のために、長い間、貴会の皆様に助け

られ、支えられています。この機会に、貴会の運営委員、事務局の皆様、そして会員の皆様お一人おひとりに感謝の心を伝えさせてください。本当にありがとうございます。皆様のご奉仕、愛の行いを神様が豊かに祝福してくださるよう、そして、皆様の活動によって支えられている宣教者の皆様が、これからも神様の愛のしるしであり続けるようにお祈り申し上げます。

2023年3月より、ローマの共同体の日本人メンバーは以下のとおりとなります。

藤原睦子、大野祐子、向井由美子、
井口みはる、辻原弘美

☆アルゼンチン ミシオネス

神言修道会 北島泰治

支援する会顧問の山之内マリオ司教様は、アルゼンチンで司祭になられた方ですね！ブエノスアイレス州のルハンで日本人移住者のための巡礼ミサと一緒に捧げたことを覚えています。

かつて長崎で島村大司教様とお会いした時、もう日本には帰ってくるな！と言われて。その意味が分かりませんでした。今この歳になってこの言葉が、今の私の支えとなっています。宣教師の道には甘えは禁物ですね。一時帰国も考えられません。いつか支援をお願いすることはあると思います。その節はよろしくお計らいください。

☆東ティモール ディリ

聖心侍女修道会 中村葉子

「2003年に私たちの修道会が東ティモールに創立されて以来、様々なご支援を頂いてまいりましたことに心から御礼申し上げます。

長年の夢が叶って、この度、日本一時帰国中に事務局で事務局長にお会いすることができました。海外で働く私たちを支援したい、という

沢山の方々の暖かいお気持ち、ここから私たちに届けられているのだと強く感じました。主キリストの救いの協力者でありたい、との思いで微力ながら働く私たち宣教師たちを今後ともご支援いただけますようお願いいたします。

☆ブラジル ドラードス

1991 年ブラジル・ドラードスに同会支部開

設のため派遣される。それから日系ブラジル人の子どもたちのために 7 年間、宣教師として働いた、林 七枝修道女（殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会）2023 年 1 月 16 日北海道にて帰天されました（95 歳）。2016 年には修道請願金祝。



事務局訪問の宣教師

4 月 14 日 ————— 東ティモール

聖心侍女修道会

Sr. 中村 葉子



事務局に初めて来ました。
今回も非常に有意義な援助金
を手にして東チモールに届け

たいと思っております。東チモールはまだまだ政治も、生活も安定していない国で、日本などから比べるといわば、大変幼い子供のような状態と言ってよいと思います。これからの子供たちのために将来国に役に立つ人材を増やすためにも今回の援助によって得られる図書館の図書

の役割は全ての年齢の子ども、幼児から大学生にまで有意義だと思い感謝いたします。

3 月 10 日 ————— ドイツ

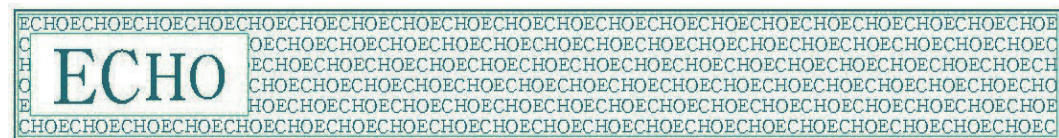
聖パウロ女子修道会

Sr. 比護 キクエ



本年 1 月 5 日に完全帰国いたしました。ドイツ宣教中は皆様からのお祈りと毎回の「き

ずな」をお送りくださり力を得ましたので、報告に訪問しました。ドイツから何度かお邪魔しましたが、変わらぬ事務局にホッと致しました。長い間ありがとうございました。



◇イースターおめでとうございます。平和が近づきますように。（千葉県松戸市…平松 裕子）
◇この度は些少ですが、二人で送らせていただきます。私たちは 95 歳ですが命を頂いて居ります事に感謝してしっかり生かして頂いております。（千葉県松戸市…萩原 光代、中島）

◇海外で宣教しておられる奉獻生活者の方々のためお祈りしています。あらゆる危険から守られご健康であられますように。

（兵庫県宝塚市…女子御受難修道会）

◇御復活おめでとうございます。

（兵庫県西宮市…近藤 恵津子）

◇きずな 161 号ありがとうございました。夢中で記事を読みました。

(千葉県習志野市…東田 裕子)

◇この一年を共に感謝してお祈りいたします。

(東京都西東京市…クリスト・ロア修道会)

◇“きずな”をありがとうございます。どうぞ通信費にお使いください。

(神奈川県大和市…大和学園内)

◇直接宣教に赴かない私たちは祈りにおいてシスター方と心をつにしております。ご復活の主がシスター方を支えてくださいますように、又シスター方の宣教を通してより多くの方が復活の主との出会いを体験できますようにお祈り申し上げます。

(栃木県那須町…那須トラピスト修道院)

◇「きずな」ありがとうございます。読む度に世界各地で働く皆様に思いを馳せ、感謝の気持ちでいっぱいになります。

(東京都武蔵野市…近藤 優子)

◇宣教者の皆さまが危険から守られます様祈っております。(長野県松本市…山田 満喜)

◇イースターに寄せてささやかですが、みなさまのお役に立てれば幸いに存じます。

(東京都多摩市…北村 妙子)

◇明日はどんな一日でしょうか、みな様の上に主の思いがあふれてつつみますように。

(福岡県福岡市…森 由理)

◇お元気でご活躍いただけます様、お祈り致しております。(福岡県敦賀市…堅田 久美子)

◇「きずな」をありがとうございます。楽しみにしています。(東京都武蔵野市…八幡 とも子)

◇海外宣教者の方々へのご奉仕感謝しております。今後ともお元気で宜しくお願い致します。

(京都市伏見区…ヌヴェール愛徳修道会 片岡玉枝)

◇海外での宣教に励んでおられるみな様のお姿をいつも「きずな」を通して読ませていただいております。神様のめぐみと共に大きな祝福がありますように祈っております。

(東京都中野区…ベタニア修道女会 聖バルナデッタ修道院)

◇いつもきずなをありがとうございます。皆様のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

(北海道札幌市…カトリック北 26 条教会)

旅の終わり、旅の始まり

日本カトリック海外宣教者を支援する会

会長 村上 芳隆 (ofm)

今年、「＜旅＞の終わり」という企画が、長崎大司教区で予定されています。これは、「浦上四番崩れ ＜旅＞の終わり」150 周年記念行事です。浦上四番崩れとは、「浦上地区で江戸時代末期から明治時代初期にかけて起きた大規模な隠れキリシタン（キリスト教徒。当時のキリスト教は禁教であり犯罪行為であった）の摘発事件」（ウィキペディア）です。浦上のキリシタンたちが津和野をはじめ、各地に流配され、多くの人が苦難の内に亡くなりました。1873 年（明治 6 年）にキリスト教禁教令の高札が廃止されて、散らされた人々が流配地から長崎に戻ることが出来るようになって 150 年を祝う企画です。予定されている行事には、5 月 28 日に

ロザリオ行列と記念ミサ、7月23日にミッションスクールの高校生による演劇「岩永マキ物語 Great Mother」（毎熊義幸作）の上演、9月10日十字架山での記念ミサ、があります。十字架山はわたしが赴任した本原教会地区内にあります。

長崎では、この苦難の体験を〈旅〉と表現しています。それはあたかも、出エジプトの民が荒野を40年かけて約束の地に導き入れられたのと重なる歴史的体験のようです。出エジプトと40年の荒野の旅は、イスラエルの民にとって救いの原体験です。同じように長崎のキリスト者にとって「旅」は、先達者たちの信仰の証の歴史なのです。わたしはこのような歴史と伝統のある長崎に4月10日赴任しました。修学旅行、巡礼、中高生の夏キャンプ、平和と人権セミナーのフィールドワーク等で、何度も長崎を訪問したことがあります。それらの訪問や研修で得た事は沢山あります。今年の新しい任命を通して、わたしは長崎で生活して初めて肌で感じ実感する歴史を学び、長崎体験を深めたいと思っています。

わたしの長崎への任命は小教区での勤めが主ですが、修道院としてはフランシスコ会の特別な使命があります。それはフランシスカン・プレゼンスを通して「国際平和共同体」となる使命です。その使命の中核は、「フランシスカン的な兄弟的交わりの輪を周囲に広げる」という事です。わたしたちはこれを「長崎プロジェクト」と呼んでいます。2018年に韓国人、中国人、フィリピン人のフランシスコ会員が修道院共同体に加わり、新しい共同体として発足しました。2020年にコロナ禍のために、始まったばかりの活動は中断していましたが、2023年5月には新型コロナ感染症の規制が解除され、活動が本格的に再開されます。わたしも共同体のメンバーとして、長崎プロジェクトの協力者としての任命も受けています。わたしにとって今年は、新しい〈旅〉の始まりなのです。

連載

「海外宣教」

『復活』

マリオ 山野内 倫 昭 さいたま教区司教

『あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかれる。』

(マタイ 28. 7)

これがキリストの光である。私はそれを輝かすであろう。

私はキリスト者であり、この光である。決してそれを隠さない、

兄弟姉妹、この光を受けなさい。そしてあなたもこれを輝かしなさい。

輝くであろう、絶えず輝くであろう。

主のご復活おめでとうございます。復活の喜びを祝うために、よく知られている歌を紹介しました。これが光であって、私たちはたえずその光を輝かせなければなりません。

北半球のヨーロッパとアジアでは春の訪れと共に復活祭が祝われます。特に日本では色とりどりの花がかぐわしく香り、森や山に新緑が芽吹き、自然の美しいハーモニーを奏でます。

今年は3年間のコロナ・ウイルスによる試練の後の、身体的、そして霊的に健康な春でもあります。全ての人が熱意と創造性を持って、霊的司牧の刷新を、この復活祭から始めたいのではないのでしょうか。

再び、どこで復活されたイエスに出会えるかを聞きましょう。

婦人たちは次の頼みを受けました。「それから、急いで行って弟子たちにこう告げなさい。『あなたの方は死者の中から復活された。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかれる。』」（マタイ 28. 7）

今日、私たちが問いかける緊急性、なぜ復活されたイエスに出会うためにガリラヤへ行かなければならないのか。この招きにどのような深い意味が含まれているのでしょうか。「ガリラヤに行きなさい」とは、今日のキリスト者に何を言われているのでしょうか。

良い知らせ、つまりイエスが宣言された、人間化への神のプロジェクト（もっと人間らしく生きていられるようにする）は、ガリラヤで初めて明かされたのです。ですから、今日イエスの呼びかけを素直で開かれた心で聞かなければ、イエスの福音とは関係のない情報と教えていっばいになる危険性があります。

ガリラヤのほとりでイエスの最初の共同体が生まれつつありました。イエスに従った人たちは唯一の体験をイエスと共に受け入れます。ゆるす、病人や悪霊に取り憑かれている人を癒す、神の無限の愛への信頼を目覚めさせることを学びました。

ですから、もし復活節の物語を読みながらガリラヤに戻れば、復活されたイエスの見えない現存が人間的な姿になり、この社会で最も必要としている人たちへの助け合い、いつくしみと愛の具体的な行動になります。

復活されたキリストの証人として私たちの共同体を築いていきましょう。からし種のような信仰を持ちながら……（マタイ 17. 20）

新入会員 (敬称略)

個人会員 3名

寺田 公之 (千葉県千葉市) 桐岡 貴恵 (東京都練馬区) クームス ジョン (愛知県名古屋市)

事務局より

- ◎皆様からのイースター献金なども大変感謝しています。ありがとうございました。
- ◎復活祭も終わり新たな年を迎え、宣教者の皆様のご活躍を期待しております。
- ◎日本もコロナの力が弱り全ての活動がこれから活発になることを祈ります。
- ◎援助も少しずつ始まりました。皆様からのご寄付をこれからもお願い申し上げます。
- ◎2022年度の会計監査が終わり9月号でご報告申し上げます。
- ◎会長の村上芳隆神父 (ofm) は長崎転勤、長崎からの原稿となりました。
- ◎今年度も皆様から書き損じはがきや、未使用の切手などお家に眠っているものを是非送りくださいますようお願い致します。通信費として大切に使用させていただきます。
- ◎事務所は火曜日、金曜日 10時～16時オープンしております。
- ◎今年度事務所の夏休みは8月11日～8月18日の予定です。

編集後記

◇新型コロナウイルス感染対策における行動制限のない状況のなか、感染症疾患の指定が2類から5類に変更されました。マスクの着用も個人の判断となりましたが、医療施設や福祉施設、特に高齢者施設や障害者施設ではマスクは勿論、アクリル板やフェイスシールドを外す事に対し慎重になっています。感染症の専門家などにアドバイスを受けながら適切な対応を望みます。カトリックの信仰を持つ者として一日も早い安息を願います。(い)

発行：日本カトリック海外宣教者を支援する会

〒106-0032 東京都港区六本木4-2-39

Tel. 03-5770-8753 Fax. 03-5770-8754

e-mail kaigai-senkyo@cronos.ocn.ne.jp URL <http://www.kaigai-senkyo.jp>

・銀行振替口座 みずほ銀行高田馬場支店 普通 2084112
日本カトリック海外宣教者を支援する会

・郵便振替口座 00140-5-67881 海外宣教者を支援する会